

東由利村報

No. 93 1965・3・1

発行
東由利村役場
編集
畑山伝二郎
印刷
KK本間印刷所

移動村民室開催

中学校統合を主題に

目的、予算編成の時期をむかえて、新年度の村の重点施策を説明し、長年の懸案である学校統合の基本構想もまとまりつつあるので、これ等のことについては村民とよく話し合い、その意見や要望を反映させてよりよい村の建設を進める。

場所・日時

午前9時30～午後3時00
法内2月11日、黒淵2月12日
宿2月15日、袖山2月17日
住吉2月18日

午後1時30～午後4時30
蔵2月21日、老方2月23日
玉米2月26日

村民室の構成

役場一村長、教育長、税務
経済課長、小松主事、小松久
雄、畑山伝二郎
議会議長、農業対策審議委員
小松真一、小野作右工門
地元村議会議員

村施策の説明要旨

1 村政一般～村長

村政の目標～住みよい村、
暮らしの楽な村をつくること。
村を中心とする国、県、村道
の整備計画。村人口の減少と
産業対策。農業構造の改善
酪農、養蚕の振興計画。奥地
開発の重点施策。共同体制と
村民の和。青少年の健全育成
と農村後継者の確保

2 林野開発～議会議長

日本農業特に本村の農業は
米にたよっている部面が大き
い然し開放経済の今日、果し
てこれで安心出来るか。

イタリアもブラジルもアメリ
カも年々米づくりが盛んにな
って、その売付先を日本に求
めている。殊にビルマを始め

とする東南アジアの国々は、
日本で米を買わなければ日本
商品を買えない国々であり、
年々米作が進歩して米代は日
本の3分の1である。我々は
この対策を考えなければなら
ぬ。我が村で米について有望
なものは酪農と林業である。
可能な山には先づ草地、草地
に向かない山には人工林を育
てて雑木山は最少限にする。

3 産業経済～経済課長

土木～下吹橋永久橋、宿橋
完成、黒沢林道延長墜道補修
米～39年度売渡し6万7千俵
約4億円、若し1割減収すれ
ば4千万円、村税の2年分の
減収となるので、健康な稲づ
くり格段の努力を願う。
酪農～県指定地区だから融資
がある。村では人工授精に10
万円、仔牛育成所に20～30万
円、共済獣医に50万円位の助
成をして振興に努力している
農業構造改善～3カ年で1億
2千万円、今年度は3千2、
3百万円の予定である。蔵地
区の基盤整備は構造改善のキ
ツカケをつくる重大使命を帯
びているものであり、二次三
次の継続事業のさきがけをな
すものである。

4 村税～税務課長

完納部落は大幅にふえて帯
納一掃ももう一息というところ
に来たが、1月末ではまだ
楽観出来ない。2月末を目標
に完納するように、特に本年
度は納期内の完納につとめら
れたい。

5 学校統合教育長・

小松久雄

○中学校統合の理由

生徒数の急減、村民意識の統

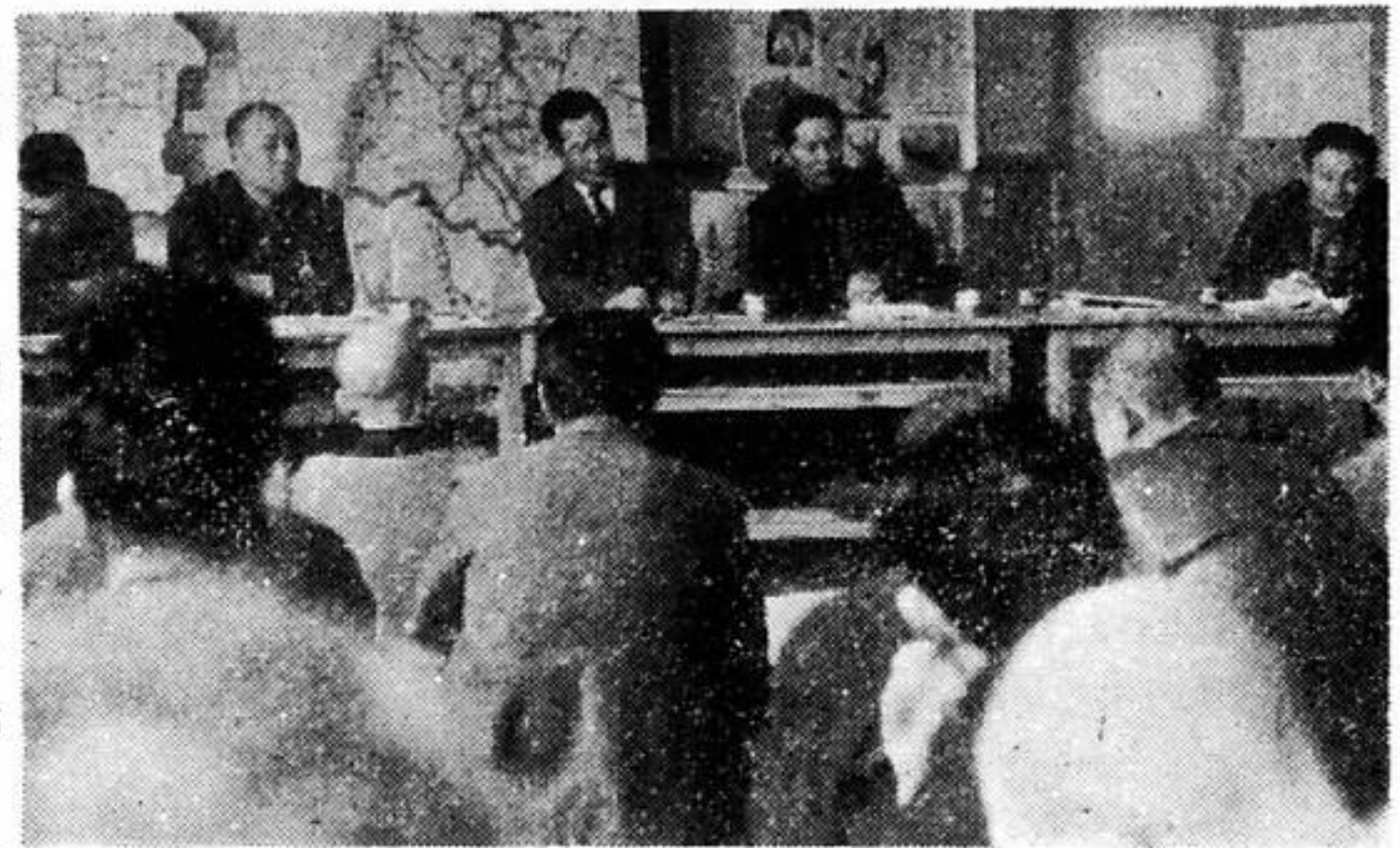
一、補助金の機会をとらえる
学力の向上、教育費の能率的
な使い方、各校舎の老朽、良
教職員を得るために

○通学対策

道路の整備、バス利用、寄宿
舎の完備

統合計画

40年度は敷地決定、補助金
等の事務的処理、41～42年度



校舎建築

○校舎の規模、設備

校舎1,300坪、屋体252坪
寄宿舎279坪、プール83坪寝
具86人分、敷地2千坪

○経費概算1億3千万円

財源、国県補助5,900万円
地方債3,900万円自己資金約
4千万円

敷地約1万坪、老方周辺。

▷村民側の意見・要望◁

村内8地区、村全域にわた
って話し合いした結果、中学
校の統合については黒淵地区
の一部に時期尚早の声があっ
たので、財源措置に十分留
意し、通学の便をはかり、金
のかからない教育を考えて、
一日も早く統合を実現するよ
うに、小学校の統合は、中学
校と並行して、慎重に検討す
べきであるとのことであった
なお各地区の要望の重なるも
のは、

法内 道路を整備して小型バ
スを運行するように。

共有地の利用が出来るように
村の援助を望む。

黒淵 未利用地開発のために
道路を整備してもらいたい。
これが出来れば広大な草地の
開発が出来る。

牧道、農道を整備したい。
館合の入口の道路を改修して
バスが自由に来るようにして
もらいたい。

袖山 村条令を改めて、分収
林の村2公共事業4植林者4
を村2植林者8として植林意
欲を高めるように出来ないか
山間部農業の消力は農道の整
備が第一だが助成出来ないか

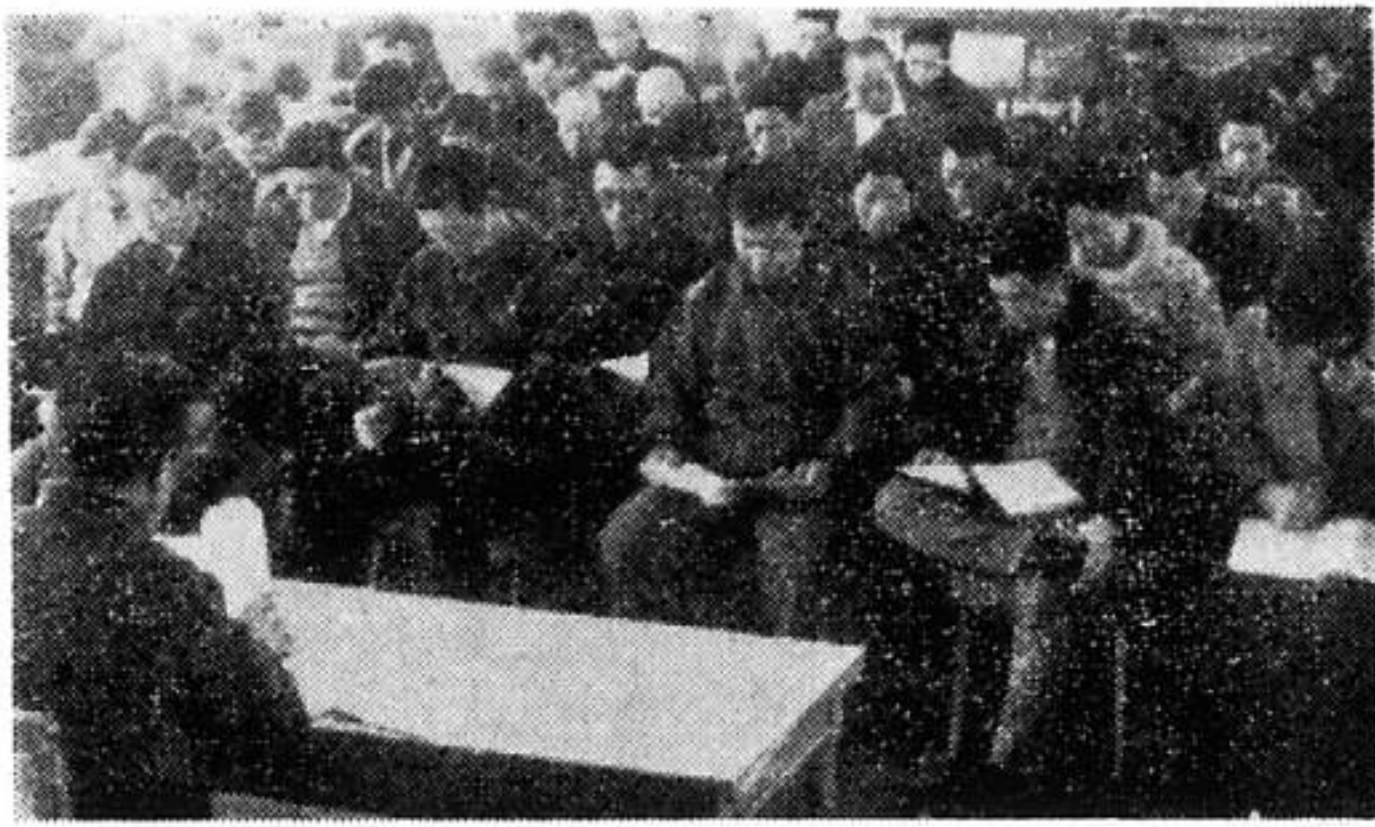
住吉 寄宿舎の運営につい
て、家庭から子どもを離すこ
とは好ましくない。特に男女
生徒間の問題が起らないよう
に。

蔵 学校統合の経費が村民の
税負担にならないように配慮
せられたい。

老方 107号線の一級国道昇
格に伴う新路線の予定なども
不明であるし、これは中学校
のみならず、部落としても重
大問題であるから、敷地の選
定については慎重に善処して
もらいたい。

高沢の水道と林道、新町より
役場前を通る道路、寺田の県
道など、川地に対する協力体
到を整えて改修を早められた
い。

館合 健康な稲づくりの焦点
として、種籾の催芽の科学的
な指導施設を考えられたい。



一年間の研究集積

酪農振興検討会

東由利村酪農連盟では、2月8日役場でこの会を開いた。昨年以來玉米、藏、老方、宿の4カ所で移動酪農相談室を開いて検討した問題点を解決して、当面の目標である搾乳牛1千頭確保を早期に達成しようとするものであり、役場農協、共済組合よりの助言者を始め、参会者約80名、折よく来村した県コンサルタント（産業経営の合理化を図る人）の酪農調査員7名の参加を得て、話し合いの内容は深さと幅を増して権威あるものとなり、午前午後にわたって活発な討議が行われた。

○草地

1 構造改善事業により若林地区に40町歩の草地を開発し長根谷地等既存のものと合せて60町歩の団地とし、これに必要な施設をすることにより300~400頭分の素飼料を確保する。

2 これまでのブルドーザーは15度以下の斜面の作業に限られていたが、今年県では山岳酪農開発のため、急傾斜の場所でも作業の出来る機械を購入するので、優先的に本村に配置する約束が出来ておりこれにより新たに草地をつくるようにする。

3、適地であれば小規模でも手掘をすすめるこれに対する助成措置を考える。

4、村有地を活用する場合は出来得る限りの便宜をはかる。共有地（誰々外何名）については関係者の話し合いに

よって適地の開発をすすめる

○資金

1 仔牛育成資金の貸付は1頭につき4万円となったのでこの資金と育成施設の利用により優良乳牛の増殖をはかる

2、乳牛導入資金、まじめな酪農家に対しては極力農協の協力を求める。

○乳牛

1、ホルとジャージー乳量—（橋本氏）ホルの場合年間5,000キロ以上のものは県内ではごく少いが、山本町の場合は乳価でくらべると、ジャージーの方がまさってる

2、乳価—脂肪買いはつづく。ここ3年5年で変化はあるまい。むしろジャージー乳は飲用乳として特別な存在価値となるであろう。

乳価は地域により10円以上も違うのはなぜか—乳価は原料乳と飲用乳との二本立であり本村は原料乳扱いである。

3、県酪農連盟、三浦氏

日本の牛乳の生産量は現在の需要にこたえるには早急に2、6倍にしなければならない

○ジャージーの特性

県畜産試験場、橋岡氏

1、放牧に適する。放牧すると先頭に立ってよい草を選び、喰い込みがよい。足が丈夫で運動がす早い。放牧するように。

2、乳量は経済的に計算して決してホルに劣らない。

○共済

廃用の際の支払い金が遅いので困る。共済又は農協で立替支払いが出来ないか？共済志村氏「今年から共済にも多少のゆとりが出来るので御要望にこたえ得ると思う」

僻地振興対策補助

智者鶴に実施

構造改善事業に乗らない地区の農道などに対する補助の道はないか？という袖山地区移動村民室での質問に対してお答する。

一般的には補助はない、融資の道はある。しかし、県の僻地指定を受けている所には産業、教育、公共施設などに対して3分の1以上の補助がある。39年度智者鶴では農道345m、工費46万円の工事を

行い、県補助4割18万4千円の交付指令を受けている。

村でそれぞれの地区に対し5カ年計画を立てて県に申請している、くわしいことは役場で聞いて下さい。なお僻地指定地区は次のとおり。中ノ沢・滝ノ下・祝沢日照坂・倉茂沢・松柴・新沢・智者鶴泡ノ淵・向田・大吹川須郷・高屋・土場沢・沼・大台

村社会福祉

事業に寄付

今年1月8日、北海道の冷害に米を送った宿小の5年生について、東京の学習研究社の助川記者が取材に来てあったが、その時の謝礼として記念品と2千円を送って来た。5年生では級会を開いた結果困っている人達のために使ってくださいと村社会福祉事業に校長を通じて寄附をした。重ね重ねの温かい子どもたちの心に感謝されている。

まちがつて申告した方へ

修正申告は早めに

「修正申告」と「更正請求」ははやめに、手つづきはかんたんです。

3月15日までに申告書をお出しになったあとで、その申告内容に誤りがあることに気づかれた場合は（たとえば申告もれや、余計に還付を受けたとき）よけいな加算税などを納めないですむように早速「修正申告」をすることです。税務署ではただちに申告額どおり補正します。この修正申告は税務署から更正の通知がくるまではいつでも出すことができます。またその逆に、余計に税金を納めたり、還付を少なく受けたときはこれも早速「更正の請求」の手続きすることです。期限は2月15日から1カ月内に限りますが期限が過ぎた後であってもは

っきりした誤りや書き間違いの場合は税務署で訂正することもあります。

いづれも用紙は税務署に備えつけてありますからご利用して下さい。

（本荘税務署）

有利な前納報償金

都合つくなら先づ前納

報償金は前納分に対し1万円につき月100円の割合でつきます。今例を1期に1万円の固定資産税を納める場合にとりますと

固定資産税の納期は、4・7・12・1月となっており、納期月には報償金がつきませんから、4月に全納しても1期分にはなし、2期は5・6の2カ月分、3期は5~11の7カ月分、4期は5~1の9カ月分計1万円の18カ月分1,800円がつきます。

参考までに農協の年利は普通5分6厘、郵便貯金の普通は3分6厘ですから、1万円の18カ月分の利子は農協で約840円郵便貯で540円ということになります。もっとも郵便貯金の場合は複利計算となるのでいくらかはふえますが報償制度はいかに有利であるかをあらわになってご利用なさるようおすすめいたします。

東由利村婦人会研修

長谷山包子夫人講演

2月9日東由利村婦人会員、200余名が役場に集って、午前10時から12時まで「これからの婦人団体活動のめざすもの」という、長谷山包子夫人

新らしい生活秩序をつくること。これは団結の力によって築くより外はない。そのためには一人一人が意見を発表出来る力を養うこと。



新秩序の一、嫁と姑との関係、農村には家があり、親子、孫が一しょに暮している。このためにいざこざが起る場合が多い。一しょに暮しながら仕事を分けることを考えたらどうであろう。やれば出来ることです。

新秩序の二、農村に嫁がいなくなったというが、いないのではない。嫁に求めるものが間違っているのだと思う。今でも嫁に求める第一は「すなお」ということであ

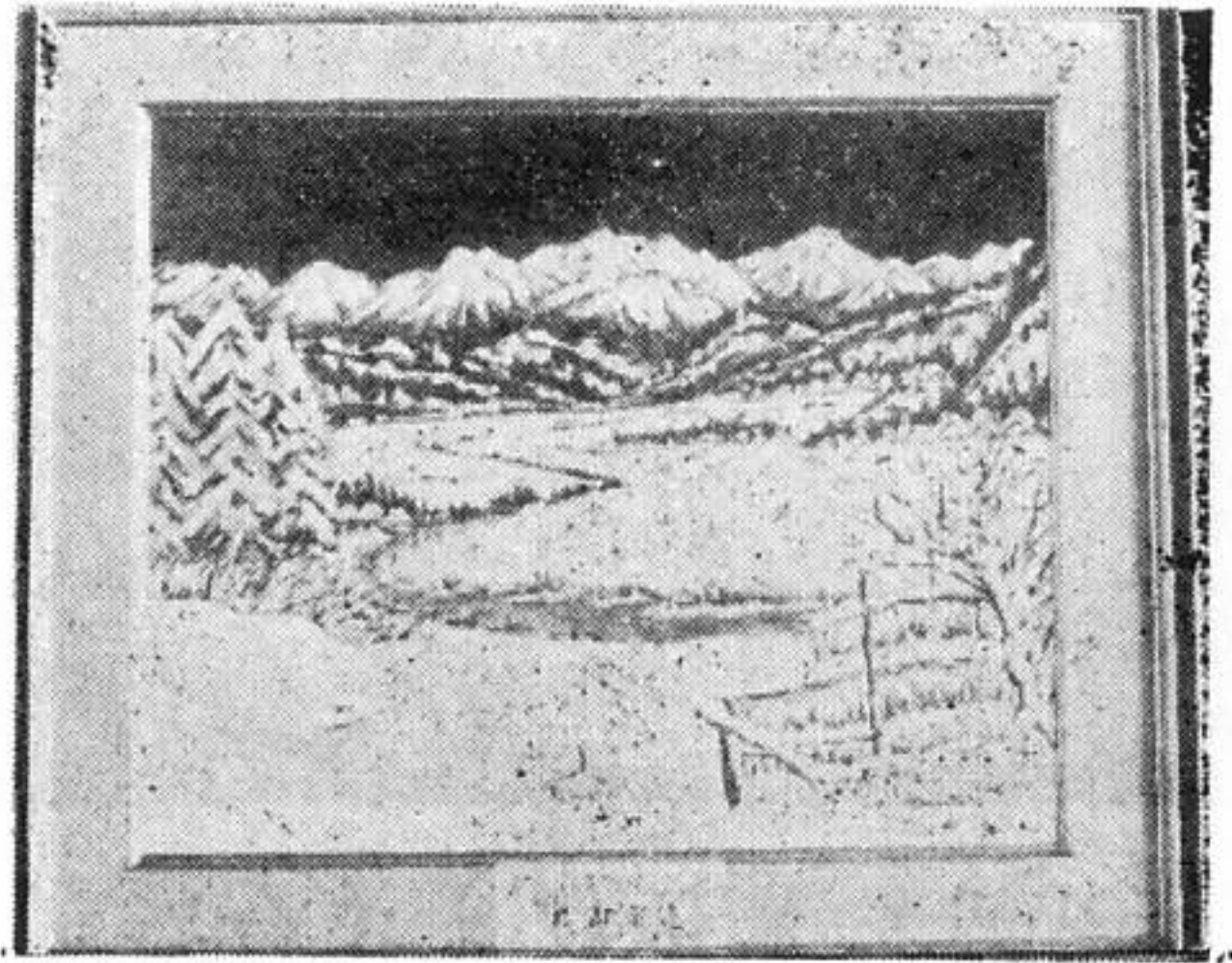
り、その内容は、自己を持たない位にハイハイということを知り、従って青年会活動などで自覚を持った娘が残る例がある。これは新秩序とは大きく矛盾する。

新秩序の三、約束を守ること。農村では人間関係があいまいであり、そのために無用の争いが起ることが多い。仕事(事業)を始めるならば、事前に細かく話し合っ、やり方をキチンときめる。きめた約束は必ず守る。こういうことが農村には足りない。なおこれからは境界や人権問題などの法的処理も心得ていなければならない。

◎買物について
たくましい商魂にあやつられないように、安いから買うというくせをやめるのが消費生活の要点で、すべて計画的に買物をする。必要の順位をきめて、衣料計画、家具計画などをきめて置くことが大切だ。

◎職業に対する使命感
今日我々の生活を支えている便利な数々の物は、それぞれの学者や技術者が、夜を日について長年努力した成果である。然し、これを使う者はその人々を知りもしなければ別に感謝してもいいようだ。こうしてみんなは多くの人々の数々の努力の上に生きている。農民はこれに対して食糧増産をもってむくいる責任がある。

◎住みよい楽しい会社をきづくために



丸山氏より絵画寄贈

本年2月17日、丸山当逸画伯から「現代美術展覧会」入選作品「老方の雪景色」が寄贈になりました。

同氏は小松千代太氏長女ヒ

ロミさんの夫君で、現代美術家協会々員で、その大作「聖火幻想」は国立競技場に揚げられることになっております。

写真 丸山氏寄贈絵画

玉米農協婦人部学校

日時 2月9日午後1時～3時

講師 長谷山包子夫人

講義 「農村婦人として知って置きたい法律知識」
講義内容

①裁判所を手軽に利用することについて

②法律の必要性と法律が身近

かなものであること。

③例として「土地の境界」地上権、相続の問題、小作権等の説明

④その他聞き手の質問に答えて

参加人員、玉米農協婦人部員230名(農協婦人部事務局)

自動車定期点検整備

4月1日から

4月1日から自動車を使用するすべての人は、車輛の定期点検整備を行わなければならないことに義務づけられました。

◎定期点検整備とは
小型トラック、乗用車、軽自動車は6カ月ごとに。

大型トラック(8トン以上)バス型自動車、事業用自動車は1カ月ごとに。「定期点検基準により点検することです。その結果、安保基準に適合しないときは整備しなければなりません。定期点検整備をした時は、定期点検整備記録簿に記録し、1年間保存し車検の際には提示しなければならない。「定期点検整備の実施」「定期点検整備記録簿の

記入」は、黄色い標識のある市内認証整備工場で責任をもって実施いたします。

2月の社会教育

公民館では1月25日に地区運営委員代表者会議を開き、次期地区運営委員の選任方法、本年度内、来年度の事業計画とこれに伴う予算などについて協議した。

これによって宿、蔵、老方、館合、住吉の各地区では、婦人会、若妻会等が中心となり編物、手芸、和洋裁、料理、生花などを地域の実情によって組み合わせ10日～15日にわたって講習会を開いた。

部落若妻会でも、湯出野、老方下通、新町、新田、蔵など研修会を開き来年度の計画をきめており、蔵地区では地区若妻会の交流会の準備をしている。



中学生をはげます会

卒業生 288 名

3月3日村では中学卒業生全員を役場に招いてはげました。校歌交歓に始まり、村長のはげましのことば「君達の先輩には実に優秀な人材がおる。君達はそれにつづいて更にその上を行け1回や2回の失敗にくじけるな、たくましい力をもって初志をつらぬけ、知識よりも人間らしい人間となることを心掛けよ」を受け、地図による道路を中心とした村づくりの夢を聞かされ、中学生大いによろこぶ。

中学校卒業生調べ(3月1日現在)

議会議長よりは、履歴書を焼いて実力の検定によって待遇をきめる会社が出て来た。みなさんの出て行くこれからの世の中は能力本位、実力本位の世の中になるであろう。不断の真剣な努力をつづけるよ

区分 学校名	卒業生数			進学	就職	家事
	総数	男	女			
下郷中	176	101	75	94	60	22
玉米中	112	56	56	43	39	30
計	288	157	131	137	92	52

進学には定時制41名を含む

おかあさんも初参加

珠算検定の合格者

昭和40年2月21日施行の全国珠算教育連盟主催珠算検定試験での受験者並びに合格者は次のとおりである。

級	合格	受験級	合格受験
2	2	14	6
3	7	30	7
4	11	27	8
5	15	29	
		計95	210

今回の検定には初めて蔵若妻会のおかあさんが二人参加し見事合格された。

未成年者の

禁酒禁煙運動

39年の青少年の非行は10,943名で戦後最高、しかもその大半は喫煙や飯酒につながっています。年間を通じてこの運動をつづけることになっておりますが、特に学期末をひかえ緊張感がゆるみ、ともすれば無軌道な行動におちいり易い中、高校生を対象に地域ぐるみの運動を展開するようご協力を願います。

(県厚生部長)

出稼だより

61歳の阿部さんから

長野県南安曇郡安曇村大白川鹿島建設橋工業内、阿部重左工門さんから、この程次のようなおたよりがありました。

阿部さんは小倉の人、満61才をむかえ団体就労者の中心となって活躍中、全文を原文のままかかげることにいたしました。

謹啓、此の度は我々出稼者の為に御親切にも村報を御恵送下され、早速同志に回覧いたし、信州の山奥にて遠く故郷の空を偲び、言い知れぬ感激に浸るを得ましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて私奴去年は東京に出でて半年の間働らき、本年は日本の屋根と称される北アルプス連峰の一角にて、四つの島からはせ参じた荒くれ土方の間に伍して村内同行の諸君の助力を得つつ「小父さん」の愛称で呼ばれて、どうにかやっております段、感謝の外ありません。

此処は中部山岳国立公園上高地の一部にて、上を見れば幾百丈とも知れぬ断崖、さながら天を突くが如く、下を見れば目もくらむばかりの溪谷の底の清水にはイワナなど棲息して居ります。1080米の標高に建つ飯場はモミ、タモ、白樺等の原生林におおわれて昼尚暗く、熊、猪、かもしかなどすむとの事です。此処に鹿島組16の班が集まり、鑿岩機の音はさながら怪獣の咆哮にも似、発破の響は戦争中の銃砲の音を連想されるようです。実に世界土木技術の粋を集めたるが如き感あり、唯驚異そのものです。

当班の今の工事は500米程の陸道の貫通作業及びその附帯作業です。奈川渡ダム工事の一部です。このダムは総工費500億円、電力出力量98万キロワット、之に要するセメント36万トン、鉄骨35万トンといわれ、東洋一のダムとなるということです。現場の近くからは、噂に聞く乗鞍岳、焼岳、霞山等は天気よき日には指呼の間に見られ、その雄大なる山の景色と崇高なる靈気とは譬えようありません。村から来ている皆さんは、此処で大いに張り切って働いております。

出稼は今や世の多くの批判を浴び、重大な社会問題として取上げられておりますが、農閑期を利用して広い世の中に出で、全国各地の人々と交流の機会を得て見聞を広め、村に居ては見得ざる多くの珍らしき地を実際に見、そして十方に余る賃金を懐にして帰ることも又一興かと存じます。不況をかこち、経営の困難を呼ばる我が村の経済に寄与する所少きとせぬと思へば出稼又宣なりと申しても過言ならざるものがあると存じます。田圃が忙しくなる頃には私達も村に帰り、今まで以上の働らきをし村の為に、又一身の為に微力を尽すことを誓ってペンをおきます。此処に一同に代って御礼と近況と抱負をのべておわりに村の御繁栄をお祈りいたします。

はるけくも来つるものかな
信濃路の安曇の里のこの山あいに

九つの都県をこえて信濃なる工事現場に我は来にけり

老方家庭教育学級に

父親学級発足

2月24日老方家庭学級では、本荘高等学校長を招いて欧米教育視察談を聞いた。鮮麗なスライドによる説明と、欧米

の家庭、学校、社会教育の各方面にわたる鋭く豊かな内容のお話をうかがって、深い反省と感動を与えられた。